平成29年度 輸出に取り組む事業者向け対策事業に係る海外販売促進活動報告書

平成29年 12月 23日

農林水産省

食料産業局長　殿

JA全農インターナショナル

米穀・園芸部

平成29年度補正における青果物輸出特別支援事業に係る海外フロンテア市場販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

対象国・地域　　：　ロシア・ウラジオストク

実施期間　　：　平成29年 12月27日
（フェアに係る出張　：　平成28年 12月21日～ 12月23日）
※諸事情により商品搬入が予定より大幅に遅れたため、出張期間内では関係者との状況確認およびその後の対応協議を実施した。詳細は別記

「ロシア全農フェア」

1．『ロシア全農青果物フェア』経過について打合せ

日程：平成29年12月22日
場所：ロシア ウラジオストク市内
参加者：FUKUROU.LTD　佐々木社長、佐々木氏
九州農産物通商㈱　海外事業部　保坂部長
JA全農インターナショナル㈱　米穀・園芸部 白石
※FUKUROU.LTD はセンコン物流㈱の業務委託先
内容：経験上一定の余裕を見てフェア日程を組んでいたが、諸事情により商品搬入が予定より大幅に遅れた。そのため、出張期間内では関係者との状況確認およびその後の対応協議と会場下見を実施した。販促活動は商品納入後現地パートナーFUKUROU社が実施することとした。

(1)　当初予定

12月8日　鳥取県境港出港
12月11日 ウラジオストク入港
12月20日 通関
12月22～23日 スーパー「パルス」にて全農フェア

(2)　結果

12月08日 境港出港
12月12日 夜 ウラジオストク入港
12月21、22、25日 植物検疫監査
12月25日 通関
12月26日 佐々木社長 入手
12月27日 パルスにて全農フェア
12月28日 プレバヤレチカにて販売
12月28日 ギーペルマーケットにて販売

(3)　商品搬入が遅れた理由

① 入港が遅れた

１１～１２日は発達した低気圧と強い冬型の気圧配置により日本海が大荒れとなったため、11日に入港を予定していたコンテナが１２日夜に到着し、BL及びコンテナの船会社からの引き渡しは１３日の夜となった。

② 通関に日数を要した

・船の到着遅延に加え１２月は貨物が混雑しているため、予約していた車や監視員が確保できず、結果として全体の大幅な遅れに繋がってしまった。

・植物検疫検査を行うにはフェリーポートからコマーシャルポートに異動させ、その許可が必要となる。
１５日にその許可が下りたが、12時間の有効期限しかなく、移動する際に立ち会いが義務付けられている監視員・監視員の所属部長が不在だったため、時間内に移動できなかった。

・16日、監視員の確保と許可を取得しましたが、コンテナが他の貨物に囲まれ、取り出せない状況となった。

・17日～18日、税関側のシステム上のトラブルで、コンテナの登録がされていない事態もあり、コンテナを取り出せない状況が続いた。

・19日、許可取得、コマーシャルポートに移動。

・20日～22日検疫検査。

・23日、24日休日。

・25日　検疫検査終了、その日の内に通関が切れた。

(4) その後の対応協議

① 12月22日打合せ時点ではなお検疫検査中で、商品リリースの目処が経たない状況であった。

② そのため、商品リリース後速やかに現地のFUKUROU社の協力のもと全農フェアを実施することとした。　　した。

③ フェア会場はスーパー「パロス」として、それ以外の販売先も探ることとした。結果としてスーパー「キーペルマーケット」市場「ブレバヤチカ」でも商品を販売した。

2. 『ロシア全農青果物フェア』について

（1）期間　　：平成29年12月27日

（2）場所　　：スーパー「パルス」 青果物売り場

（3）出席者　：Fukurou,Ltd　佐々木社長、佐々木氏
※Fukurouはセンコン物流の業務委託先

（4）内容および経過　　：

① ロシアウラジオストクの流通事情に精通しているセンコン物流を通じて、ロシア ウラジオストクのスーパー「パルス」にて、青果物の全農フェアを実施した。販促した商品は別記のとおりである。
② 本会のロシアでの青果物の販売の第1回は、2012年サハリンのユジノサハリンスクで開催している。ウラジオストクでは2013年、2014年、2015年、2016年に続いてのフェア開催となる。
③ 経験上一定の余裕を見てフェア日程を組んでいたが、諸事情により商品搬入が予定より大幅に遅れた。そのため、出張期間内では関係者との状況確認およびその後の対応協議を実施し、販促活動は商品納入後現地パートナーFUKUROU社が実施した。

【今回フェア向けに輸出した商品】

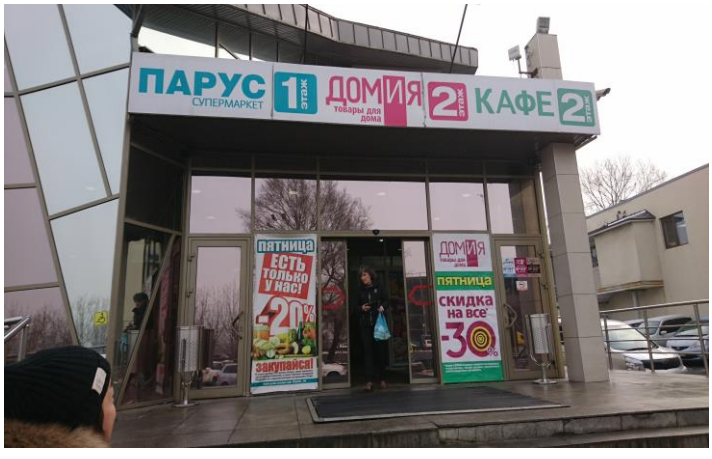
アールスメロン1420～1450g*6	熊本県	8.5 kg	CS	6
ミニトマト（パック）	熊本県	3.0 kg	CS	6
美味柑125～130g*38～40	熊本県	5.0 kg	CS	9
デコポン280～300g*18玉	熊本県	5.0 kg	CS	12
甘藷（高系14号）丸	熊本県	5.0 kg	CS	6
柿（富有柿）260～300g*36玉	福岡県	10.0 kg	CS	8
ブドウ（シャインマスカット）5～7房	山形県	5.0 kg	CS	4
ナシ（愛宕梨）625～1000g*5～8玉	愛知県	5.0 kg	CS	9
カボチャ（栗・えびす）760~900g*11~13	鹿児島県	10.0 kg	CS	6
甘藷（べにはるか）500g袋*20	大分県	10.0 kg	CS	6
				72

3. ロシア全農フェア実施状況（１）

（1）期間　：　平成29年 12月27日

（2）場所　：　パルス青果物売り場

（3）内容　：　果実はすべて一口サイズにカットし、“まずは試食してもらう、味を知ってもらう”というテーマで、販売促進活動を行った。
22日は特売日で多くの顧客が来店、顧客の流れる通路で試食を提供し、陳列されている日本産農産物コーナーへ誘導した。価格は高いとの声もあったが、「味がとてもいい」「この果実なら少しぐらい高くても買うわ！」という声を頂いた。

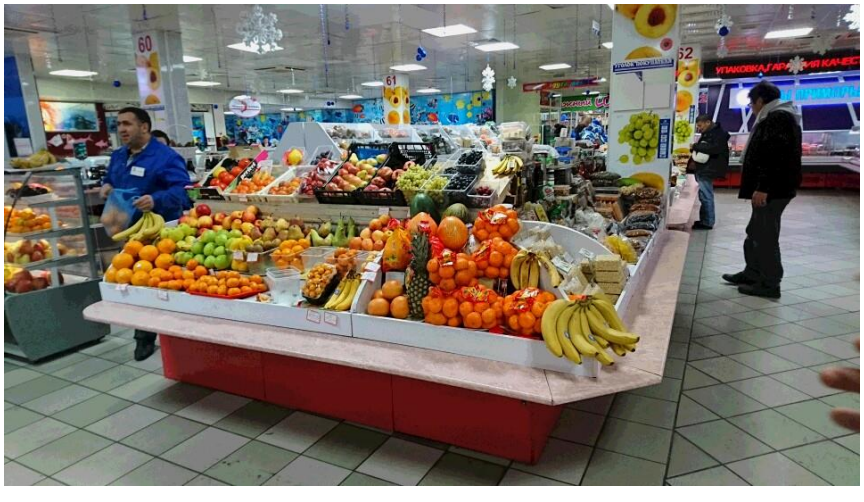


4. ロシア全農フェア実施状況（２）

販促活動はしていないが、パルス以外にギーペルマーケット、ブレバヤチカでも商品の販売をして頂いた。ここでも日本産果実および甘藷は概ね好評であった。

ギーペルマーケット

ブレバヤレチカ（市場）



5. 所感

・ウラジオストクは人口約60万人（他沿岸地区200万人）で、ロシアの中では経済は安定していると思われる。
ただし全体の所得水準はけっして高くはない（平均所得は約10万ぐらいか）
・中央アジア産がない時期ではあるが、欧州の経済制裁の中、韓国産・中国産の売り場は拡がってる感がある。
しかし、安全性には不安があるという消費者の声もあったので、日本産青果物にも可能性は十分にあると思われる。
・ユーラシア経済連合の関係から、検疫条件等がまだよくわからない状況である。
実際、昨年まで輸出していたイチゴは今回輸出ができなかった。
このあたりの情報収集が必要である。
・試食宣伝では、「品質・味が良いので少しくらい価格が高くても買いたい」との声もあったので、その少しくらいが課題になると思われるが、輸出拡大に向けてチャレンジしたい。

6. フェアの成果及び今後の進め方

・味と品質については一定の評価は頂いたので、最大のネックとなっている価格について、商流・物流面の両面から見直し、コスト削減を検討する。
・韓国産・中国産が思った以上に売り場を占めていたので、長期的な視野で売り場確保に努めていきたい。
・今回の経験を踏まえロシア特有のリスク（天候、通関、検疫など）を慎重に検討し、
次回計画を立案したい。